

8. 養殖魚安定生産・供給技術開発委託事業 (抜本的な生産コストの抑制手法の開発)

松倉一樹

本プロジェクトは、国立研究開発法人水産総合研究センター中央水産研究所を中核機関として、東町漁業協同組合、鹿児島県水産技術開発センター、有馬屋水産株式会社、東京海洋大学が参画し、主要な養殖魚種であるブリについて、低魚粉飼料への転換、給餌量の抑制等の条件を組み合わせた飼育試験を現場レベルで行い、従来の飼育方法との比較により、生産コストの削減効果を評価する。最終的には生産コストに見合った養殖生産体制の構築に資することを目的とする。

総合水産試験場では、小割生簀を用いたコストの比較試験における飼育魚の健全性の評価を担当している。今年度は、低魚粉飼料区、給餌頻度削減区、および季節に応じて魚粉主体飼料と低魚粉飼料を使い分けた試験区のブリについて、血液性状および血漿化学成分の分析等を行った。その結果をもとに、低魚粉化や給餌頻度の変更がブリの健全性に及ぼす影響を評価し、試作された低魚粉飼料の有効性等を検討した。

(担当：松倉)